

雪害対策特報

今後の突発的な豪雪等で施設や果樹棚の倒壊、果樹類の枝折れ等の被害の発生が心配されます。つきましては、下記を参考に対策を実施してください。

1. 施設栽培 *降雪時には燃料タンク、加温機 周辺の燃料配管の点検をお願いします。

- 降雪により施設が潰れないように中柱や筋交いの設置をして施設の補強に努める。 *できるだけ細かく設置する
- かけたままのビニールやネットは降雪前にしっかり片づける。
- 被覆資材を除去したハウスでは、ジョイント部分等（接合部）に積もった雪が屋根一面に積雪することがあるため、積雪が多くなった場合は除雪をする。
- ハウス周辺の除雪や消雪剤散布を行い、ハウス上部の落雪を促進させる。
- 加温栽培の場合は融雪に努め、燃料切れがないように注意する。あわせて給油口付近の除雪を行う。
- 地上配管の接合部が雪の重みで外れ、重油がもれる心配があるので、除雪を行い、バルブをしっかり閉める。
- 加温設備があるハウスは加温機をフル稼働し谷間の融雪を行う。ビニール等内張りカーテンがある場合は、カーテンを20cm程開けてハウス全体の温度を上げるよう努める。
- 無加温ハウスは、ハウス間の通路の除雪や雪の溜まる部分の常時雪下ろしを行う。併せて、中柱で補強も行ってください。

2. 露地栽培共通

- 枝折れや棚の倒壊がないように早めの（粗）剪定を進める。
- りんごわい化樹の下枝は、融雪剤散布やスコップによる掘り割り等を行い被害防止する。
- 棚栽培は支柱の本数を増やし、倒壊防止に努める。 *必要であれば樹の幹にも支柱を行う
- 果樹の立木や棚に積もった雪は、早急に落とす。尚、果樹棚の雪の落とし方は、園の中央から外側に向かって、徐々に円を広げるながら行い、斜形地の場合は下方から雪を落とす。
- 棚が倒壊した場合は、樹体被害を最小限にするために早めに支柱で棚を起こす。また、すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝などの分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こす。
- 太枝が完全に裂けた場合は、切断面を滑らかに切除し癒合剤を塗布して乾燥や枯れ込みを防止する。
- 雪の表面に融雪剤、黒土、焼モミガラ、木灰など有色のものをまく。また、雪面に凹凸のうねをつけ大気と接触する表面積を大きくして融雪を促進する。
- 融雪水が多くなるので、排水溝や明渠を掘り圃場外へ排水を促す。

3. 凍害対策・野ネズミ対策

- 防寒対策徹底 *本年初結実した樹や着果過多樹（弱樹勢）等は凍害を受けやすくなります。下記の予防対策は万全にしてください。
 - 白塗剤：主幹部（80cm位まで）へフジホワイト等を塗布する。
 - わら巻き：地際部から地上80cm程度までの樹幹部に厚さ5cm以上で巻く。
 - ももの若木（7年生程度まで）・りんご若木など、凍害・樹体枯死・樹勢衰弱が心配される場合は、厳寒期（特に1月）の剪定は行なわない。
- 野ネズミ対策
 - 根元のマルチ・草はきれいに取り除く。また、園の周囲もきれいに除草する。
 - 密度を減らす（捕殺）：一斉防除は必ず実施してください。
 - パチンコでの捕獲：りんごのエサ等でネズミの活動穴へ夕方仕掛けて4~5日続けると効果があがる。
 - 毒エサによる毒殺：所定量を穴に投与する。ネズミが集まりやすいように剪定した枝を束ね、ワラ等で覆った中に毒エサを入れておく（10アール 4~5ヶ所）。尚、穴へ毒エサを入れる場合は、奥の方へ棒で押し込み穴をこわさないようにしておく。
 - 古タイヤを半分位土に埋めて中に毒餌を入れておく（餌は何回も追加する） *15~20mに1本位設置が目安。

裏面もお読みください。雪害を被った場合の応急対策例を記載しています。

参考：雪害を被った場合の応急対策

1. りんご・もも・核果類などの立木

- ① 太枝が完全に裂けたものは、切断面を滑らかに切除し、トップジンMペーストを塗布して癒合を早めるとともに乾燥や枯れ込みを防止してください。
- ② 主枝分岐部・骨格枝分岐部分が大きく裂開したもので接合できるものは支柱で持ち上げて補強し、カスガイ・ボルト・縄 等で固定してください。接合部の癒合を早めるために、接合したあとトップジンMペーストを塗布してから、雨水の侵入や乾燥を防ぐためムシロやシルバーフィルム等で覆ってください。

2. ぶどう棚・梨棚・プラム棚・ハウスなどの施設

- ① 棚が倒壊した園地は、とりあえず樹体被害を最小限にするため早めに支柱で棚を起こす。
- ② すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝等の分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こす。
- ③ 主枝分岐箇所などが裂けてしまった場合は縄などでそれ以上裂けないようしっかり縛る。
- ④ 棚上にも雪がある場合は棚上にも消雪剤をまく。

果樹棚の雪降ろしの方法

ぶどう棚の雪降ろしの最中に、棚が倒壊する事例があります。棚にかかる重量バランスが崩れ、一部に重さが集中し、そこから倒壊したと思われまます。今後、ぶどう、梨、プラムなど果樹棚の雪降ろしをする時は、次に注意して行ってください。

- ① 平坦地では、棚の中心部から外側に向かって、徐々に円を広げるように雪を降ろしてください。(図1)
- ② 傾斜地では、坂の下部分～上部分と2～3に分け、坂の下側からそれぞれの部分の雪を降ろしてください。(図2)
- ③ 数人で作業する場合は、互いにバランスを取りながら雪を降ろしてください。特にAマストの棚の支柱が傾いている場合は、雪降ろしにより支柱が倒れることがありますので、支える等の工夫をしてください。

図1 平坦地での雪の降ろし方

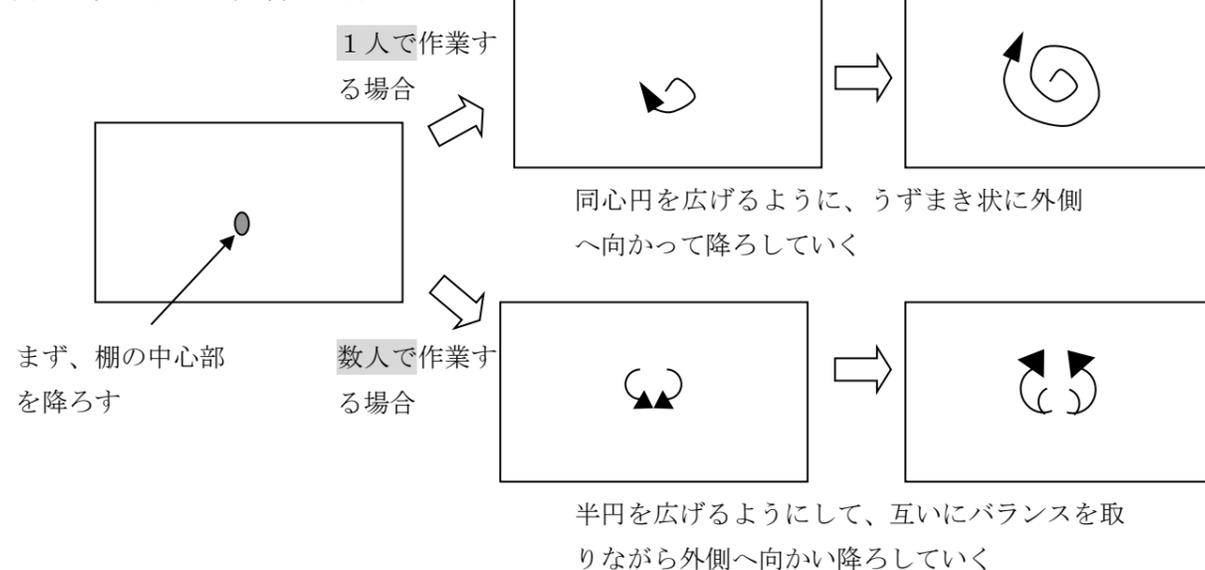
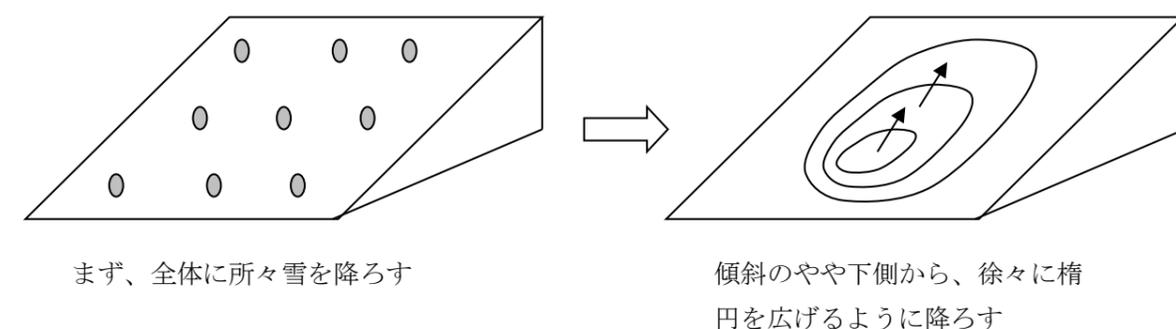


図2 傾斜地での雪の降ろし方



注意！

- ① 棚の端から雪を降ろしていくと、残った部分に重さが集中し、倒壊しやすくなります。(特に、湿った雪が多く積もった場合)
- ② 上図は基本です。雪の状況に応じて、臨機応変に雪降ろしを行ってください。